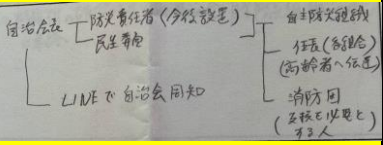


3班 真田

タイムライン作成のためのワークシート

警戒レベル	基準（どのタイミングで、どんな基準に従うか）	活動内容（誰が、どのようなことをするのか）	上田市からの避難情報発令	気象庁等の情報	住民等がとるべき行動等（上田市による）	活動を達成するために事前に準備すること
1				早期注意情報 （警報級の可能性）	最新情報に注意 災害への心構えを高める	
2	岩井堂橋からみて濁流、大きな石がぶつかるとがしてきたら避難の可能性を考える。	自主防災組織や消防団から自治会長へ連絡、自治会長からLINE。電話連絡網で自治会内へ周知する。 ・自治会3役、自主防班長が公民館に集合 注意喚起をLINEで配信（LINE利用者 88/140世帯） 		・大雨警報 ・洪水警報 ・氾濫警戒情報	自らの避難行動を確認 ・避難場所 ・避難方法	
3	・長小学校設置雨量計が30mmを超えた時 ・自治会長宅に雨量計を設置し、30mmを超えた時 ・丸山橋で水防団待機が発令された時	・伍長へ連絡、車で避難できない人は長小体育館へひとまず歩きで避難 ・中央公民館へ直接避難もあり	高齢者等避難	・大雨警報 ・洪水警報 ・氾濫警戒情報	●危険な場所から高齢者等は避難 高齢者等：避難を完了させるのに時間を要する住宅又は施設利用者の高齢者及び障害のある人等、及びその人の避難を支援する者	・避難情報発令時に判断できる、マニュアル作成 ・マニュアルをもとにした災害訓練を行う ・各地域に防災担当者をすえる ・緊急連絡網の作成 ・地域、核のつながりの強化 ・安全な避難経路の把握と実践
4		・長小から中央公民館へ移動	避難指示	氾濫危険情報	●危険な場所から全員避難	・災害伝言ダイヤル# 171を使う
5			緊急安全確保	・大雨特別警報 ・氾濫発生情報	●命の危険 直ちに安全確保！	

課題と今年度の取組み

- ・自主防メンバーへの意識づけ
- ・長小が危険区域で避難場所にしてよいか（危険が切迫する前）

市への要望

- * 上田市の防災対策本部の体制を市民へ周知出来る様なシステムの確立
- * 有線放送にかわる情報伝達システムを構築する